

令和3年 12月「月報」

1 はじめに

12月1日現在、新型コロナの新規感染者数は、全国で121人に減少し、観光地などでは多くの人が賑わい、感染拡大前の日常を少しずつ取り戻しつつあります。

1年を振り返ると、今年も新型コロナ感染拡大に振り回された1年と言えるでしょう。

本会の活動では、愛媛県（9月）及び愛知県（10月）で予定した本部主催の防衛講演会をはじめ、多くの事業を止む無く中止せざるを得ませんでした。

各県家族会では、多くの入隊・入校予定者激励会が中止・縮小となりました。また教育隊等での新隊員入隊式・終了式も家族会の参加が叶わず、新規会員獲得に苦労したことと思います。一方で、コロナ禍を理由に会の活動を何もしないのは問題があるとして、コロナ対策を講じながら工夫を凝らしつつ防衛講話や研修会等を実行した地区家族会もあり、「月報」や「おやばと」で紹介をしました。

わが国をめぐる安全保障環境では、中国は、国際法にも抵触しかねない海警法を独断で施行し、相変わらず尖閣諸島周辺での領海侵犯を続けつつ日米両政府の出方をにらみつつ虎視眈々と現状変更を試みようとしています。

このような厳しい安全保障環境及びコロナ禍においても、自衛隊は、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動をはじめとする海外派遣活動を行い国際社会の平和と安定に貢献するとともに、国内においては、東京2020オリンピック・パラリンピックの支援及び熱海市の土石流災害派遣等を行いました。また、新型コロナ感染拡大防止のための大規模接種センター（東京・大阪）を5月24日から11月30までの間運営し、延べ約196万回の接種を行い、国民のワクチン接種率向上に貢献しました。

11月27日の陸上観閲式において、岸田総理大臣は、訓示の中で「関係者の皆さんは、チーム一丸となって、緊密にコミュニケーションを重ね、課題を洗い出し、積極的に改善を続けた、と聞いています。その熱意と懸命な働きが、諸外国を上回るペースでワクチン接種を進めることができたという結果に貢献いたしました。自衛隊の隊員一人一人の能力、志の高さ、そして組織としての団結力を力強く示してくれたと思います」との感謝の言葉を述べました。

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 自衛隊記念日行事

令和3年度の自衛隊記念日の各種行事が、コロナ感染症を考慮して行われました。

11月20日、自衛隊殉職隊員追悼式が、27日には、陸上観閲式が行われました。

なお、今年も自衛隊音楽祭りは中止とし、これに代えて、令和4年3月28日・29日・30日に「青少年のための3自衛隊合同コンサート」を東京オペラシティコンサートホールで行う予定です。

ア 自衛隊殉職隊員追悼式

11月7日、令和3年度自衛隊殉職隊員追悼式が、防衛省市ヶ谷庁舎講堂において実施されました。

今年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、来賓（歴代防衛大臣等）の参列を取りやめ、参列者を遺族と部内者のみに限定し、規模を縮小して実施されました。

式には岸田総理大臣をはじめ、岸防衛大臣、新たな殉職隊員のご遺族、殉職後10年目、20年目などのご遺族および防衛省関係者など約100人が参列しました。

今年度は、陸自12柱、海自3柱、空自2柱、防衛医大1柱の計18柱が合祀されました。

まず今年の18柱の名簿を岸防衛大臣が奉納し、殉職者に対する拝礼・黙とうが行われました。

岸田総理は、「ここに祀られた2019柱※の御霊に対し、改めて心より敬意と感謝の意を表します」と追悼の辞を述べました。

引き続き、岸防衛大臣が「亡くなられた隊員の遺志とともにわが国を守っていくことを防衛大臣としてお誓い申し上げます」と述べました。

最後に献花、拝礼・黙とう、弔銃が行われ、参列者全員が殉職者に追悼の意を表して式は終了しました。

※警察予備隊以降、令和3年度までの殉職者数は、陸自1086柱、海自470柱、空自432柱、機関31柱の計2019柱となっています。



追悼式会場



追悼の辞を述べる岸田総理(官邸 TW)

イ 陸上観閲式

11月27日、令和3年度陸上観閲式が、陸上総隊司令官（前田忠男陸将）を主催者とし、朝霞駐屯地司令（青木誠陸将補）を指揮官として、朝霞駐屯地の隊員約800人が参加して行われました

観閲官の岸田総理大臣は、訓示の中で「我が国を取り巻く安全保障環境は、これまでにないスピードで、大きな動きを見せています。ひと昔前にはSF小説の世界だったものが、今、正に現実になっている。その中にあって、国民の命や暮らしを守るために何が求められるのか、冷静に、現実的に議論を突き詰めていくこと、そして、国民の皆さんにしっかりとご理解いただくことが、政治の責任です。このため、私は、国家安全保障戦略、防衛大綱、中期防衛力整備計画の改定を指示いたしました。この

中で、いわゆる敵基地攻撃能力の保有も含めて、あらゆる選択肢を排除せず検討し、必要な防衛力を強化してまいります」と表明しました。

また隊員家族に向けては、「ご家族の皆さん、皆さんの大切な伴侶やお子様、お父様やお母様を心から誇りに思います。彼らは、いつ、どんな時でも強い覚悟と責任感を持って任務を遂行してくれています。それは、ひとえに、皆さんが彼らを隊員として送り出してくださり、日頃から力強く、そして温かく、支えてくださっているからこそです。ご家族の皆さんは、彼らにとって、どれほど大きな存在でしょう。最高指揮官として、皆さんに心から感謝申し上げます」と謝意を表しました。

最後に「隊員の皆さん、皆さんには、皆さんを信頼し、頼りにする1億2,000万人の日本国民がいます。国民の命と平和な暮らしを守り抜くという崇高で気高い任務を担う誇りを胸に、皆さんがより一層、鍛錬に励むことを切に望みます」と訓示しました。(岸田総理の訓示要旨は、おやばと12月号をご参照下さい)



巡閲を行う岸田総理大臣(官邸HP)



訓示する岸田総理大臣(同)

(2) 自衛隊の海外派遣活動の継続

ア 海賊対処行動の継続

11月16日、政府は、NSC(国家安全保障会議)の9大臣会合と閣議を開き、国際協調主義に基づく積極的平和主義の下、国際社会の平和と安定に引き続き貢献していくことが重要との認識のもと、現在ソマリア沖・アデン湾において実施中の海賊対処活動を1年間延長することを閣議決定しました。

イ シナイ半島国際平和協力業務実施計画の変更

11月16日、政府は、中東の平和と安定に資するものであり、シナイ半島国際平和協力業務実施計画を変更し、多国籍部隊・監視団(MFO)司令部に派遣している要員2名の派遣期間を令和4年11月30日まで1年間延長することを閣議決定しました。

3 家族会の活動

(1) 北海道地域協議会

10月27日、令和3年度北海道地域協議会(島村吉曜副会長)が札幌市内のネストホテル札幌駅前にて開催され、本部から田浦北海道地域担当理事が参加しました。

昨年度はコロナ禍により書面での協議でしたが、今年度は、札幌、道北、道東、道南、道央の各家族会会長及び理事１７名が参加、コロナ対策に万全を期し、対面での協議会を追求しました。

また、北部方面総監部から募集課長、厚生課長以下６名が参加し、家族会関連事項の説明がありました。

ア ブロック会議（主要な意見を紹介します）

（ア）コロナ禍における家族会活動

- ・家族支援訓練については、コロナ禍のため電話による安否確認訓練を実施した。
- ・自衛隊の記念行事中止等による未執行予算で、ロゴ入りウエットティッシュ、マスクケースなどを作成し、自衛隊に寄付した。



北海道地域協議会の様子

（イ）会勢の拡大

- ・入隊・入校予定者激励会が中止・縮小となったため、地本と協力し入隊予定者家族宅を直接訪問し入会勧誘を行い、入会に繋げた。
- ・地本が行う入隊案内説明会を活用し、家族会の説明・勧誘を行い成果があった。
- ・家族会の若返りが課題（若い会員は個人の仕事があり、会の活動が困難）

イ 定期総会

令和２年度事業報告及び同収支計算書並びに会則の変更等を済々と議決しました。

ウ 北海道地域協議会長の補選を行い、島村副会長が新会長に選任されました。

（２）近畿地域協議会

１１月２３日、令和３年度近畿地域協議会（河本順雄会長）が、兵庫県自衛隊家族会（村上日朗^{あきお}会長）の担当により、神戸市内のホテル北野プラザ六甲荘にて開催され、本部から土谷事務局長が参加しました。

今年度は、参加者を各県会長及び事務局長等に限定するとともに、兵庫地方協力本部のご協力を得て、３密回避の広い会議場を準備するなどの万全のコロナ対策を講じ、対面での協議会を追求しました。

当日は、国歌斉唱、殉職者への黙とうに始まり、最初に河本地域協議会会長の挨拶の後、村上兵庫県家族会長の司会により、討議テーマに基づき順次各県会長から発表があり、白熱した討議を行いました。以下主要な意見を紹介します。

ア コロナ禍における家族会活動

- ・ほとんどの入隊・入校式は中止となり新規会員の獲得は苦労しているが、コロナ禍にあっても、新隊員の行進訓練激励や災害派遣部隊への慰問・激励は実行した。
- ・教育隊等での「家族会入会意識アンケート」は大変ありがたいが、入会時の会費の記載がないため、「会費がかかるならば入会は遠慮する」と発言する隊員家族がいた。会費の記載を検討して欲しい。

イ コロナ収束後の家族会の展望

- ・コロナ禍にあっても自衛隊の活動は、国防任務の他、災害救助や国際貢献活動など任務の多様化を含め増加傾向にある。かかる状況の下、隊員が安心して任務にあたるための家族支援協力は重要な施策であり、未締結の部隊との協定締結を進めたい。
- ・家族支援希望者の多くは非会員家族である。そこで入会案内をすると「高齢だから入会はできない」と拒否される。「私も高齢だが入会し、隊員のために安否確認活動をしている」と説明しているなどの県家族会活動の紹介がありました。

ウ その他

会員間の連絡手段としての SNS の活用について、河本地域協議会長がじ前に各県会長に対し意見を求めました。

その結果、或る県では、地区会長から役員・理事への一括送信が可能となり、時間短縮が図れたなどの有用性は認めつつも、高齢会員の多くが IT 装置の利用に難があるのですぐには普及できないなどの意見がありました。



近畿地域協議会の様子

エ 防衛講演会

最後に、兵庫地方協力本部長（高岡久 1 等陸佐）による「日本を取り巻く安全保障環境」と題して防衛講演会がありました。

本防衛講演会には、地域協議会参加者のほかに兵庫県家族会員 24 名も参加し、参加者からは、難しい防衛問題をわかりやすく説明していただき理解し易かったとの感想が寄せられ、有意義な地域協議会となりました。



熱弁を振るう講師（高岡兵庫地本長）

（3）第 4 6 次派遣海賊対処行動航空隊への慰問・激励

11 月 22 日、古門沖縄県自衛隊家族会会長は、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処のため派遣される第 4 6 次派遣海賊対象行動航空隊（隊司令：屋宜純平 2 等海佐）への本会からの慰問・激励を担当しました。

当日は、古門沖縄県家族会会長が那覇基地を訪問し、屋宜航空隊司令に直接激励品目録を贈呈するとともに、無事の帰国をお祈りしました。

第 4 6 次航空隊は、2 週間の隔離後 12 月 7 日に那覇航空基地から P3—C×2 機とともに出国



の予定です。

屋宜航空隊司令に激励品目録贈呈

(4) 令和3年秋の叙勲受章者等の紹介

11月3日、秋の叙勲受章者等の発表があり、以下の会員が受章されました。

ア 叙勲受章者

- 増田 好平 運営委員 瑞宝重光章（元防衛事務次官）
- 大城 伸吉 大分県家族会事務局長 瑞宝双光章（元西方総監部海自連絡官）

イ 褒章受章者

- 桑畠 保夫 道北自衛隊家族会会長 藍綬褒章（自衛官募集相談員としての功績）

(5) 県家族会の活動

ア 水陸機動団の部隊訓練を慰問・激励（長崎県自衛隊家族会）

11月10日、長崎県自衛隊家族会（浦田正会長）は、水陸機動団（相浦駐屯地）の南島原市加津佐町での訓練を激励しました。

当日は、気温も低い中、約40名の隊員がAAV、ゴムボートを使用した訓練や寒中水泳訓練を行なっていました。県と地区家族会合同で訓練中の隊員に温かい豚汁の炊き出しを行い、隊員達には大変好評でした。



豚汁の炊き出し

イ 女性部交流会で防衛講話を開催（島根県自衛隊家族会）

11月14日、島根県自衛隊家族会（佐藤孝子会長）女性部（吉田篤子部会長）は、出雲市大社町のカミアリーナにて、自衛隊島根地方協力本部長（高橋洋二1等陸佐）を講師に迎えて、「自衛官って、どんな仕事」と題して防衛講演会を主催しました。

会場には、会員77名が参加しました。講師の高橋地本長から「自衛官の生活、女性隊員数、ワークライフバランス、福利厚生など」の普段報道で目にする自衛隊の姿とは違う一面を講話頂きました。

会員からは、自衛隊への知識を深めるとともに子供達の苦勞の一端も理解する絶好の機会になったとの感想が寄せられ、有意義な講話となりました。



防衛講話の様子

ウ 活動スナップ

最優秀賞の賞状と幟とともに記念撮影



岡山県自衛隊家族会（中村孝太郎会長）
砕氷艦「しらせ」南極向け出港見送り



横浜中央地区家族会（栗城真理子会長）

コロナ禍の理事会



伊丹自衛隊家族会（高木清志会長）
駿府城公園のボランティア清掃活動



静岡自衛隊家族会（増田親男事務局長）